

様式第15号(第20条関係)

平成27年3月26日

熊本市長 大西一史様

熊本市東区

特定非営利活動法人 熊本子ども囲碁普及会

理事長 江藤 茂

印

熊本市市民公益活動支援助成金実績報告書

平成26年4月1日付け指令(市協)第1-6号により、平成26年度熊本市市民公益活動支援助成金の交付を受け付けました事業の実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 助成事業名 児童クラブにおける囲碁普及モデル事業
2. 助成事業の実施期間 平成26年4月1日～平成27年3月26日
3. 助成事業の内容
熊本市の7児童クラブに、囲碁の指導者を派遣し、年間288時間の囲碁普及モデル事業を実施した。碁盤、テキスト代として8万円、指導員への報奨金 365,400 円に助成金を充てた。
4. 事業の成果
囲碁講座の受益児童数は延べ4890名である。一人でも多くの子ども達に囲碁を教え、楽しさを伝えることができた。囲碁で学童保育に貢献できたと考えている。
5. 助成事業の実施状況 別紙に7校の実施状況表があります。
 - (1) 事業収支決算書(様式第16号)
 - (2) 事業の経過又は成果を証する書類等
 - (3) その他参考となる資料

別紙(1)

事業報告書

平成26年度	
事業名	児童クラブにおける囲碁普及モデル事業
目的	学童の育成に囲碁普及で寄与したいと考えているが、囲碁の効用また当NPO法人の存在も知られていません。 モデル校での活動を通じて「役に立つ囲碁」知ってもらいネットワーク創りにつなげていきたい。
事業期間	平成26年4月～平成27年3月
具体的な事業内容	熊本市の向山小(47時間) 白川小(41時間) 清水小(42時間) 桜木小(44時間) 飽田南小(49時間) 託麻原小(46時間) 尾の上小(19時間) 計288時間の事業を実施した。 詳細については別紙実施状況表に記載の通りで、報奨金 365,400 円を支給した。 囲碁のルール、石のとり方、逃げ方や勝負の決め方などを繰り返し指導した。 この中で囲碁の楽しさを知る子どもが増えているのも事実です。 30名の児童が整然と囲碁を打っている成果を出したクラブも出現。 一方、小学1年生から3年まで混在するところでは、指導者の話を聴かないでさわぐなどの状態も報告されている。 備品 マグネット碁石@¥5,000×14組=¥70,000を購入し、「わくわく基金支援表示」のあるテキストを作成しました。(内容は、10種類 10部、7枚で¥10,000) 報告書を作成し、市内75小学校と教育委員会へ配布します。
活動場所	向山小、白川小、清水小、桜木小、飽田南小、託麻原小、尾の上小、の7校
期待される効果	子ども囲碁普及活動を通じて、囲碁の効用、当NPO法人の存在が知られるようになりました。 現在、教育委員会を通じて熊本市内75校に機関誌「熊本子ども囲碁便り」を届けており、今後のネットワーク創りに役立つと考えています。

事業収支決算書

項目		金額(円)	内容
収入	自己資金	250,436	会費 250,436
			事業収益
			その他
	市民公益活動支援助成金	214,000	当該事業助成金交付決定額
	その他の補助金・助成金		
支出	寄付金・協賛金		
	その他		
	計	464,436	
	助成対象経費	人件費	0
		報償費	365,400 総事業時間 288 × 700 = 201,600 複数指導者分 234 × 700 = 163,800
		役務費	10,000 テキスト作成費 7校の10種類 10部づつ(成果物添付)
		使用料・賃借料	0
		消耗品費	1,296 学童日誌の表紙購入 (日誌成果物添付)
		旅費	0
		備品購入費	70,000 解説用基石(@5,000 × 14組)
		その他	0
		小計	446,696
	助成対象外経費	研修会議費	17,740 26年9月、27年2月の2回開催
		小計	17,740
	計	464,436	